

Japan Season by Season

1968
作品ナンバー0078

〔日本の生活〕

第12回日本紹介映画コンクール銀賞 1968年観光映画コンクール特別賞 第9回ミラノ国際観光映画祭イタリア芸能協会賞 1968年パリ国際観光映画祭第1位 第4回タルブ観光映画祭第2位（フランス）



記録

35ミリ

カラー／29分

英・米・仏・独・西・
葡・中国語版

■企画
国際観光振興会

スタッフ

■製作
村山英治
■脚本
村山英治
福岡順子
■演出
村山英治
木塚誠一
■撮影
木塚誠一
田中 行
■音楽
湯浅譲二
■編集
沼崎梅子
■解説
バー・ホェール
(英語版)

春夏秋冬と四季の変化がはっきりしている日本では、生活にも季節の変化と彩りがある。自然に順応して暮らす日本人の伝統的な生活には、季節の移り変わりに様々な行事がからむ。

春は日本では「始まりの季節」である。学校の入学も、就職も4月である。農耕の始まりはいうまでもない。日本の春はまた、行楽の季節でもある。満開の桜の名所は観桜を楽しむ人々に賑わう。

梅雨があけて夏を迎えるとデパートでは夏の中元売り出しをするが、それは昔から続く縁日の市に由来する。そうした季節に因んだ日本的な行事は、家庭生活にも残っており、盆の行事など昔ながらに床しいものがある。

台風を境に秋晴れの日々を迎える。日本の秋を代表する花は菊である。収穫の後の観菊。紅葉も美しく、春の桜とともに昔から日本人の行楽の対象となっている。秋の陽射しに映える紅葉を愛でながら、野点（のだて）を楽しむ人々もいる。

都会の冬と雪国の冬、そして冬の祭り。近ごろの都会の生活は、冬を征服しつつあるが、なお日本の近代生活の中にも意外に根強く季節感が生きている。日本の生活の近代化は、今も進んでいるが、日本の風土とそこから生まれる季節感は、これからも長く日本人の生活にからんでいくだろう。